



Title	外大を去るにあたって
Author(s)	田川, 弘雄
Citation	大阪外大英米研究. 1999, 23, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99211
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

外大を去るにあたって

田 川 弘 雄

32年間勤務した大阪外大を去る日がいよいよやってくる。思い返せば、過ぎ去った日々が走馬灯のように次から次へと脳裏をかすめ去っていく。不思議と、楽しかった想いばかりが心に鮮明に焼き付いているのは、能天気な性格によるものであろうか。ふとした折りにそうした至福の瞬間を思い起こすにつけ、本当に自分は外大が好きだったのだなあと、しみじみ思うことがある。

長い間、自分が奉職してきた大学に愛着を覚えるのは当然と言えば当然のことではあるが、そうした個人的な次元をはるかに超えた何かが外大にはあったように思う。それは、外大でしか味わえぬ蜜の味とでも言うのであろうか、その醍醐味を自分は実に心ゆくまで堪能させてもらったような気がする。一言で言えばそれは、向学心に燃えて目を輝かせた学生諸君と触れ合うことのできる喜びであり、素晴らしい同僚の先生方や職員の方々と語り合うことのできる喜びであり、真の意味で人と人が出会うことによって得られる喜びであったように思う。小さいながらも、あるいは小さいがゆえに、外大は、まさしくそうしたかえがえのない出会いの場を30有余年に渡って提供し続けてくれたのである。

退官に先だち、先日も、研究室の後片付けをしながら、また生まれ変わったとしたら再び外大の門を叩いて学び、ここでまた教えたいと思うであろうかと自問してみた。ひょんなところから出てきた黄ばんだ講義ノートにびっしりと書き込んだ自分の筆跡を眺めながら、そんなことを考えるのはいささか妙な気分だったが、できるものならまたそうしてみたいというのが偽らざ

るところかもしれない。

かかる具合に、はなはだ厚かましくも、私が外大を溺愛し続けることができたのは、ひとえに先輩諸兄や、同僚の先生方や、学生諸君から賜った恩恵と励ましによるものである。各方面で皆さんに支えられてようやく無事に退官を迎えることができたのは望外の幸せというよりほかない。ここに長年に渡るご厚情に深く感謝の意を表するとともに、外大のさらなる発展と飛躍を心より祈念して、以って学園を去る言葉といたしたい。